

連載：がん看護実践者としての私を誇りに思う ～ゆうがや会のこぼれ話～

企画 中村 正子 (京都看護大学, 愛知医科大学大学院医学研究科緩和・支持医療学)



連載にあたって

ゆうがや会は、地域で直接緩和ケアに携わる看護師たちにより、「志は高く、垣根は低く」緩和ケアの看護の質向上をめざして、2021年12月にオンライン学習会として結成しました。「ゆうがた」にわいわい「がやがや」集まろうとの意味で「ゆうがや会」と名付けました。この頃はコロナ禍で3密を避けることや感染防護が重視され、医療施設では緊張が続く毎日でしたが、「人とのつながり」の大切さを思う時期でもありました。

毎月1回60分の細やかな集まりでしたが、日頃のがん看護実践上での看取りやご家族へのケアなどの悩みや想いを語り合い、顔の見える関係作りができる「場」にしたいと、約10人のメンバーでスタートしました。以降、知り合いに声を掛けて人づてに仲間が加わっていくことによって、全国から新しいメンバーが加わりました。メンバーは、がん拠点病院、大学病院、総合病院、訪問看護ステーション、クリニック、介護施設、ホスピス、行政、大学院生、大学教員と多彩な構成であり、メンバーの半数以上は特別な資格をもたないスタッフ看護師です。現在、登録メンバーは40名を超えました。また、ゆうがや会が主催する無料のオンライン学習会は、PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルで運営し、受講者は延べ約450人を超えています。ゆうがや会は感染対策を万全にしようえて、オフラインの集まりも大切にしています。

なお、以下がゆうがや会の大切にしたいことです。

1. 立場を超え安心して語り合う
2. 顔の見える関係づくり
3. 自身の課題の明確化
4. 専門家を招いた学習会(無料のオンライン学習会)の開催
5. 学会発表で自己の取り組みを発表する
6. 自分たちの言葉を文章にして原稿にまとめる

今回は、さまざまな職場で活躍するメンバーによる「ゆうがや会のこぼれ話」をテーマに連載を始めさせていただきます。日常のがん看護を中心とする緩和ケアのなかで、「本当にこれでよかったのか?」と、自問自答することはありませんか? そこで、本連載では正解のない問いに対する看護実践に対して、1つでもヒントになるような話を、また看護師どうしとしてのお互いを労わり合う温かな気持ちを、ゆうがや会メンバーとともに皆さまにお送りできれば幸いです。